

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
公衆栄養学Ⅱ	3年次	必修	講義	2単位(30時間)	真島 和徳 ※
授 業 概 要					
<p>地域等の健康問題とそれを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析し、相互的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、人々に適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の理論と方法を習得する。問題・課題を捉えるとき、栄養・食生活問題と健康問題の因果関係について、栄養疫学の原理と方法理解も含み講義し、わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題とそれらに対応した栄養政策について理解できるようにする。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・わが国における健康・栄養問題の歴史的な流れを踏まえ、現在から将来にわたる栄養・食生活上の課題を整理する。 ・国、地域、職域、学校その他の公衆栄養プログラムを計画・実施・評価するための法律的・制度的な基盤をよく理解し、説明できる。 ・各食事調査法の特徴と方法、結果データの解釈について説明できる。 ・栄養情報及びコミュニケーションの管理などの仕組みが説明できる。 ・食事摂取基準の概念、各数値の策定根拠及び活用方法などが説明できる。 					
実務経験のある教員					
真島 和徳：新潟県(病院、保健所等)での現場経験を踏まえ、地域・職域等における公衆栄養活動についてどのように展開されるのかを概説する。					
回	学 習 内 容			担当教員	
1	公衆栄養学Ⅰ 栄養政策②	まとめ		真島 和徳 ※	
2		実施に関する指針とツール			
3		公衆栄養学関連法規②			
4	国の健康増進基本方針と地方計画①				
5	国の健康増進基本方針と地方計画②				
6	諸外国の健康・栄養政策				
7	公衆栄養マネジメント	概要アセスメント食事摂取基準の集団への活用			
8		アセスメント 質問調査の方法と活用など			
9		公衆栄養プログラム① 目標 計画			
10	公衆栄養プログラム② 実施 評価				
11	公衆栄養プログラム③				
12	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開			
13		食環境づくりのためのプログラムの展開			
14		地域集団の特性別プログラムの展開①			
15		地域集団の特性別プログラムの展開②			
学 習 方 法					
<p>教科書や配付資料を中心に学ぶ。重要なキーワードや内容は、教科書や資料にある。授業でもポイントをまとめるが、自主的に重要項目を抜き出し、ノートにまとめることが重要。ノートまとめ力を身につけ、理解を深めるためによって、国家試験対策にも繋がる学習力となる。</p> <p>月曜試験問題を復習学習に活用することを望む。</p>					
評 価 方 法					
<p>〔評価方法〕</p> <p>欠席・遅刻、早退が極力ないことが基本である。科目終了試験は60点以上を合格判定とし、月曜試験(評価量15%)を含めて、成績の評価を行う。</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕</p> <p>管理栄養士養成課程「栄養管理と生命科学シリーズ」公衆栄養学の科学</p> <p>〔参考書〕 (大和田浩子・中山健夫他：理工図書)</p> <p>わかりやすいEBNと栄養疫学(佐々木敏：同文書院)</p> <p>国民健康・栄養調査の報告(健康・栄養情報研究会編：第一出版)</p> <p>国民衛生の動向(厚生統計協会) 公衆栄養マニュアル(南山堂) 食事調査マニュアル(南山堂)</p> <p>栄養調理六法(新日本法規) 日本人の食事摂取基準(2020年版)(第一出版)等</p>					